

東日本大震災から10年にあたり

2011年3月11日14時46分、東北地方を中心に未曾有の大災害が発災致しました。

発災から10年を迎えるにあたり、改めて、震災で亡くなられた皆様とその遺族の方に対し深く哀悼の意を表すとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

今尚、制限のある生活を送っていらっしゃる方や、精神的に大きな痛みを残していらっしゃる方もおられることと存じます。

日本青年会議所といたしましては、発災後には、全国のメンバーによる募金活動や、多くの関係団体や企業との連携・協力により東日本大震災支援全国ネットワークを設立し、被災された方への衣食住の提供等、幅広い支援を行って参りました。あわせて、2011年以降も各地域で東日本大震災復旧復興に関する事業が数多く展開されました。

その後、内閣府や内閣官房をはじめとする行政との連携や、全国的なボランティア団体と共に、防災減災への運動を広く実施しております。

あの災害による痛みを決して風化させることなく、継続的に平時からの備えを徹底していただければ幸いです。ご自身の所属する企業やコミュニティにおいて、BCP（事業継続計画）の整備等によりレジリエンス（回復力・復元力）を高めることは、命や暮らしを守っていくことにもつながります。

本日、10年という節目にあたり、東日本大震災を振り返ることで、いつ起こってもおかしくない災害に対し、今とれる具体的な行動を起こす機会となれば幸いです。

なお、本年、日本青年会議所は、1月18日に社会福祉法人 全国社会福祉協議会と「災害協定」を締結致しました。

災害大国である我が国において、各地域の社会福祉協議会と青年会議所による網羅的なネットワークを構築しておくことで、有事に対する備えに繋げて参ります。

これからも、社会に希望をもたらす変革の起点として、防災減災に寄与する運動を、力強く進めて参ります。

2021年3月11日

公益社団法人 日本青年会議所

第70代会頭 野並 晃